

「新県民体育館整備等基本計画（案）」の意見公募手続（パブリックコメント）へ寄せられたご意見に対する考え方

- 意見公募期間：令和8年5月1日から令和8年5月31日
- 意見提出：114通（個人112、団体2）、216件

1 整備の考え方

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>（整備の必要性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これからの高知に求められる役割を意識した内容。県内外から人が集まる施設となることを期待。子どもや若い世代が身近で質の高いスポーツやイベントに触れられる環境整備は大きな意義がある。防災機能と誰もが利用しやすい施設として、日常利用と南海トラフ地震など大規模災害時の拠点となることに安心感がある。 ○ 全国規模の大会や著名アーティストのコンサート開催は、交流人口拡大と県経済活性化の「起爆剤」になる。武道館やプール、展示機能の集約は利用者視点で合理的。 ○ スポーツの楽しさや感動を広く共有でき、プロスポーツやエンターテインメント、文化による地域活性化の基本理念に共感する。老朽化施設の集約・複合化により、効率的かつ多目的に利用できる施設となることは大きなメリット。施設運営にあたっては、①持続可能性の確保（維持管理・財政面での持続可能な運営計画の充実）、②防災・安全対策（浸水想定区域への浸水リスクを考慮した設計・対策）に配慮願う。 ○ 本計画は現県民体育館の整備を前提とするものであり、208億円超の県民の財産を投じる大型投資が、県民の安全と財政の両面で最善の形で実現されることを求める。計画書が認識する重大リスクに対して「合理的な対策を講じた」と言うには、現状を大幅に超えた具体的・定量的な安全担保が必要。南国市大そね地区など代替候補地の存在に鑑み、透明な比較評価の実施・公開を強く要望する。 ○ 以下の事項について「確定／未確定」「根拠資料の有無」「未確定時の整理時期及び判断主体」を明示いただきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ①主目的及び優先順位 ②需要見込み・利用日数・料金設定・収支見通しの前提と下振れ時の県負担への影 	<p>これまで令和6年度の「県立スポーツ施設のあり方検討会（以下、「あり方検討会」という。）」、令和7年度からの「新県民体育館整備等基本計画検討会（以下、「基本計画検討会」という。）」において、各専門分野の方々からご意見をいただくとともに、並行して各種関係団体へのニーズ調査やアスパルこうち利用者等へのアンケート調査なども実施してきました。</p> <p>それらのご意見も踏まえ、新県民体育館の整備方針や施設の機能、規模、建設地、教育的配慮、防災対策などについて、基本計画に盛り込んでいます。</p>	34

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>響</p> <ul style="list-style-type: none"> ③プロスポーツ・興行・MICE 誘致の成立条件と未達時対応 ④ライフサイクルコスト（建設費～解体費）の試算 ⑤機能縮減判断基準と優先順位 ⑥前提条件変更時の対応方法 ⑦検討会意見の反映状況 ⑧検討会の役割と意思決定との関係性 <ul style="list-style-type: none"> ○ 現在、利用者やスポーツ教室参加者から、休館中のスポーツ活動の場について大きな不安の声がある。対策として、サブアリーナとプールを第一期工事として早期着手・供用開始し、現体育館を解体、第二期工事でメインアリーナと武道館を整備することで、利用中断期間を最小限に止め、利用の継続が図られる。 ○ 現在の施設を壊さず通常使用を続けながら建設を進めることを提案する。現体育館はリニューアルにとどめ、グラウンド部分にイベント対応ホール付駐車場を建築することを勧める。 ○ 県民体育館の必要性は感じるが、場所・規模・利便性をもう一度初めから積み上げるべき。一方的な事業計画ありきで進められていると感じる。多目的施設は何にとっても中途半端になる懸念がある。高知は駐車場スペースが必須。5,000人規模なら尚更。他県や実際の利用者、興行専門家の見地を参考に、常に予約でいっぱい施設を目指すべき。拙速な決定を避け、再検討をお願いする。 ○ 新県民体育館整備計画に全面的に賛成する。実態に合った、地に足のついた計画である。高知らしい施設が誕生し、賑わいや活性化につながることを期待。 ○ 「県民の日常的なスポーツ活動」が中心に考えられていない。アンケート調査も不十分で、日常活動や非競技団体の意見が反映されていない。利用に格差が生じ、特定団体だけが優遇される懸念がある。複数団体が年間活動を円滑に行うことは不可能に近い。安全管理や周辺住民への影響を考えると、「集約」より「分散」にメリットがあり、集約に利点は考えられない。 ○ 県民体育館は建て直してほしい。今の規模で良いと思う。 ○ 今の県民体育館がある場所にアリーナ機能のついた体育館を作るのは反対。 <ul style="list-style-type: none"> ①市民が利用しているグラウンドを壊してまで作る必要はない。 ②はりまや橋から徒歩20分圏内だが、電車乗り場に歩道橋しかなく、イベント終了時は危険。 ③アリーナを実際利用するのはちばさんセンターの展示会など。プロスポーツや 		

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>ライブは想定できない。</p> <p>④赤字分を人口減の中でどう賄うのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一番大事なのは利用者の声であるのに、集約ありきで設計図ができています。経費抑制は理解するが、約 200 億円の施設をサンプル約 2,000 人の声で判断するのはあり得ない。 ○ 人口減対策として、公共施設を減らすと国から交付金が出るための計画ではないかと知った。交付金より県民の意見を聴き、計画を見直すべき。 ○ 県民の体育館とすることを希望する。広域避難所機能を持つ施設にしてほしい。5,000 人アリーナでは敷地が不足。地下駐車場は浸水地域では不向き。住宅隣接で高さ制限があるのでは。グラウンドを含めても広さが不十分。稚拙な計画。 ○ 現建設計画には反対。アスファルトの扱い、駐車場など問題が多すぎる。人口減の高知県、後々の県民に負担をかけない方法にしてもらいたい。 ○ 敷地面積に対し要求項目が多すぎるため、配置が窮屈。 ○ 住宅隣接、長期浸水地域に地下駐車場、教育施設グラウンド廃止、210 億円の費用は中止したほうがよい。 ○ 将来の人口減に見合った身の丈に合った県民のための施設であってほしい。 ○ 津波浸水の懸念があり、地下駐車場建設は無理がある。青年センターグラウンドが喪失。建設費の見積りも甘い。現在地は学びの多様化学校、アスファルト、潮江市民図書館など教育の要の場所。完成後も騒音や敷地内への一般人立ち入りが懸念。Bリーグが来るかも不明。来ても赤字なら撤退。有名アーティスト 3,500 人キャパは専門家から難しいと指摘。利用者の意見を聴くこと。南高校跡地を使わない理由は。県庁内にこの計画を進言する職員がいるのか。自治体競争に勝てる見込みもないのに突入するのは止めるべき。拙速な決定を止め、時間をかけた議論を求める。 ○ 県民体育館整備等基本計画に強く反対する。何もかも詰め込みで、あの土地に地下駐車場を作る発想が理解できない。 ○ 「抽選漏れで利用できない状況」の詳細データが不明。利用できない程度により、必要な施設規模も変わる。大型アリーナは甘い想定しか示されておらず、巨額の整備費と今後のコストを考えると賢くない方針である。 ○ 現県民体育館の整備は、現敷地（旧南消防署を取り込む程度）を基本とすべき。 ○ 本計画は体育館整備が前提だったはずだが、経済界等の要望により機能が次々に追加され、アスファルト、ちばさんセンター、武道館まで犠牲にしている。高知県と県民にとって何が最も大事で価値があるのか、県内部や検討委員会のみならず関 		

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>連分野の県民代表も含めて再度議論し、真に実効性のある計画にすることを強く求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体育館建て替えには賛成するが、アリーナ主目的の建設には反対。この計画案を作成した執行部が本当に「大丈夫」と自信を持っているのか疑問。自信や気概が感じられず、他人事のような感じを受ける。 ○ 50年以上の維持管理が必要。20年後、30年後、50年後の県民にとっても「よかった」と思える施設にすべき。 ○ 新県民体育館整備計画に反対し、白紙撤回を求める。既存建物を改修する方がよい。資材不足で費用は膨れ上がるだろう。 ○ 現体育館の稼働率が高い場合、工事で長期使用不可が大課題である。先行施策を提案する。①ちばさんセンター跡地にサブアリーナ+武道館規模の「第2体育館」整備。②アスパルこうちグラウンド一部転用でプール整備。 ○ 今の計画自体に反対。全てが中途半端。誰もが「メインアリーナは稼働しない、採算取れない」と分かる。 ○ 県内スポーツ施設は老朽化・空調・駐車場など問題が多いため、設備が整い多くのイベントが開催できれば、商店街や観光の発展・活性化につながる。よさこい文化やeスポーツを通じた若者への魅力向上に期待する。 ○ 県民体育館と言いながら県民の声を聴かない冷たい進め方に怒りさえ覚える。 ○ 運動や交流の場として大事な場所。1日でも早く県民体育館を建ててほしい。 ○ コンサートやVリーグ、Bリーグの試合を生で観戦したい。新県民体育館の早期完成を切に願う。 ○ 新県民体育館に期待すること <ul style="list-style-type: none"> 1. スポーツプロリーグの開催 2. 施設の改築 3. エンタメ 4. 地元のための体育館 		

2 施設の機能

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(機能の集約)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現県民体育館の機能充実とアリーナ機能の付加による複合施設化の方向性に賛同する。現体育館の立地とアスパルこうちグラウンドを活用し、室内プールや武道館機能も備えた大規模複合施設として整備することに賛同する。 ○ 高知市のコンパクトさは利点である。一つの施設に多くをまとめるのではなく、イベント集中時の回遊のしやすさを向上させることが、公共交通機関の利用や市内店舗の利用など経済効果につながるのではないかと。 ○ ちばさんセンター大ホールを集約しアリーナ化する意見に賛成する。Bリーグ誘致・設立の話から、アリーナでの観戦体験は何物にも代えがたく、将来に見いだせる投資である。社会福祉の側面も武道館などの小ホール化で賄えると考える。アリーナでも平時は体育館利用が可能であることを丁寧に説明し、青年センターとの連携も含めた運用を進めてほしい。 ○ 補助金の絡みがあると思うが、詰め込み過ぎだと思う。武道館とプールは南高校の施設改良で対応できないか。武道館は現計画で縮小するため、武道者の立場では現在でも施設が足りないのに減らさないでほしい。現武道館を残し、南高校にも計画するなら賛成である。 ○ 人口減少や老朽化施設の増加、県の厳しい財政状況を踏まえた「施設の集約化・複合化」に強く賛成する。武道館やプール、ちばさんセンター大ホールの機能を新県民体育館に集約することは、将来の財政負担を抑える賢明な判断である。集約によるメリットが最大限に考慮されている。メインアリーナとサブアリーナを連動させることで多くの面数が確保でき、全国規模の大会運営や複数競技の同時開催が可能になる点に大きな魅力を感じる。 ○ ちばさんも武道館も新県民体育館に持ってこようとしたところに無理があると思う。ちばさんは今の場所で建て替え、県民体育館は津波想定でかさ上げし、プールもグラウンドも今のまま残せばいいのではないかと。 ○ 計画案は限られた敷地にあらゆる機能を詰め込み過ぎており、無理がある。資材高騰を鑑みると建築費は相当に上ると予想され、完成後の維持管理費が県財政の過度な負担にならないか強く懸念する。何でも詰め込むのではなく、本県の財政規模に見合った「身の丈に合った取捨選択」と民間資金の活用を徹底し、持続可能な計画にすべきである。 ○ 今の計画は反対である。何もかも詰め込み過ぎ。武道館は今のところにあるのが 	<p>新県民体育館は、現在の県民体育館の老朽化等の状況を踏まえ、県民がスポーツをする施設（社会体育施設）に加え、プロスポーツや音楽コンサート、大規模展示会などを開催できるアリーナ機能を融合させた複合施設として整備する方針です。</p> <p>機能の集約化を図ることで、施設を一体的に使用することが可能となり、これまで開催できなかった全国規模の大会などが開催可能となるなどの効果が期待できます。</p> <p>特に、ちばさんセンター大ホールの機能を集約化することで、展示会や見本市などのビジネス利用による稼働率の底上げや、年間を通して中心市街地と連動した人の流れや活気が生まれることが期待できます。</p> <p>設計に運営の目線を適切に取り入れるため、競技団体や興行の関係者などに意見を聞き、利用者にとって使いやすい施設を目指す。</p> <p>また、国の有利な財源である公共施設等適正管理推進事業債を活用することができ、県の財政負担の軽減につながります。</p>	<p>20</p>

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>良い。ちばさんセンターの駐車場 800 台分を確保できない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アリーナだけでなく、武道館やプールまで、施設を詰め込み過ぎだと思う。 ○ 計画の敷地に様々な施設を詰め込み過ぎたものとなっており、様々な問題が内在しているため、1か所に集約することは再検討し見直すべきである。 ○ 県民体育館の建て替え計画が大型化しているのに驚いている。アリーナ、武道館等の併設、はては隣接の高知市の教育施設のグラウンドも使用する計画が肥大化しているようである。詰め込み過ぎではないか。各々の施設をゆったりと使い勝手の良いものとしてはどうか。従来の県民体育館を整備していくことが重要だと思う。 ○ 現在の計画に反対。狭い敷地内にたくさんの機能を作ることは全体に無理だと思う。浸水地域になっているのに地下駐車場はあり得ない。5,000人収容するものが本当に必要なのか。 ○ ちばさんはそのまま、県民体育館もそのまま建て替えは不要。老朽化を建て替えずに必要な最低限で対応してほしい。 ○ 一極集中は、不測の事態があったときに機能不全に陥る。それぞれの利便性や特徴を活かし、適度に分散して余裕を持たせた方がよいと考える。 ○ ちばさんセンターは、体育館の本来の目的から逸脱している。これは入れるべきではない。 ○ 武道館やプール、ちばさんセンター大ホールを集約することによるメリットは大きいと考える。展示会などのイベント時にメインとサブの両アリーナを一体的に活用できれば、より多くの来場者を迎えることができ、周辺の観光や飲食産業へも大きな経済効果が生まれる。 ○ ちばさんセンター機能も集約するとは。現在のちばさんセンターは駐車スペースも十分あり、現地での検討の方が良い。 ○ 利便性や経済的メリットはもちろん重要だが、武道館だけでなく「この建物が今ここにある意味」を鑑みすることも「まちづくり」の観点から重要ではないか。 ○ 「県立武道館」および「高知ちばさんセンター大ホール」の機能集約後の既存施設の解体・改修費用の明示、および「公営納骨堂」等の公益用途への再利用（コンバージョン）の多角的な比較検討を求める。 ○ 武道館の統合計画に反対。現武道館は、公園隣接で無料駐車場完備の利用上何の問題もない立派な独立施設である。耐震等に問題があれば、現地での再整備こそ最も利用者にとって一番の解決方法である。 		

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(スポーツ機能)</p> <p>○ 新県民体育館が、多様なインドアスポーツの全国大会を受け入れられる施設となるよう、アーチェリー競技についても早い段階から検討対象に加えていただきたい。</p>	<p>ニーズ調査の対象外となった競技団体に対して、必要に応じて設計段階で施設要件を個別にヒアリングし、実装可能な提案については基本設計に組み込むよう検討いたします。</p>	1
<p>(その他機能)</p> <p>○ 本計画においては、安全性、利便性、収益性の向上および持続可能な施設運営の実現に向け、ICT・デジタル技術の活用をより具体的に位置付けることが望ましい。</p>	<p>ICT・デジタル技術の活用は、利用者の利便性向上と施設の安全性確保に向け、重要な要素と認識しています。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、設計段階において、導入の優先順位や実装方法を具体的に詰めていく予定です。</p>	1

3 施設の内容

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(施設整備の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 若者からお年寄りまで老若男女が集える体育施設に期待する。有名アーティストのコンサート観覧やプロスポーツ競技の観戦を可能にし、スポーツのみならず文化や健康維持でも地域に貢献できる施設を整備してほしい。 ○ アリーナでこれまで高知で体験できなかったショーやコンサートが見られるので楽しみにしている。よさこい踊りなど高知の文化を発信する拠点となり、外国人観光客のおもてなしも可能ではないかと願っている。 ○ 全国のアリーナ建設では木材を大量に使用するなど、「高知らしさ」溢れる体育施設の整備を期待する。 ○ 四国では少ないアリーナの要素を持った新体育館の建設を望む。高知でプロスポーツチームやコンサート開催は地域経済に貢献できると思う。早期着工を望む。 ○ 一般の人たちが満足に利用できていない実態と、今後の県活性化にはイベントによる集客が必要なことを考えると、メインアリーナを有する大型施設の整備は必ずやるべきことと思う。 ○ 県民がトップレベルのスポーツに触れられる環境を整えるため、プロリーグ公式戦が開催可能な新県民体育館の整備を強く要望する。各種スポーツ大会に対応でき、コンサートや大型イベントも開催できる多目的アリーナとして整備することで、幅広い世代が利用できる施設となる。 ○ 近隣県でアリーナ構想の見直しや規模縮小が見られる今こそ、高知県は「逆張り」の姿勢で5,000人規模の本格的なアリーナ整備を断行すべきである。中心市街地から徒歩圏内という立地優位性を生かし、県外観光客の消費を最大化させるため、VIP席の設置などの柔軟な設備投資を強く求める。 ○ 新県民体育館は、今の敷地内に耐震性の優れた建物を建設してほしい。地盤沈下・津波・長期浸水が予想される地域で、豪華なアリーナを作る計画に不安しかない。特に地下駐車場は論外。 ○ 様々な意見があるかと思うが、若者をはじめ多くの県民が高知に愛着を持てる、20～30年先の将来ビジョンを踏まえ、アリーナ機能の充実によるプロスポーツ・大規模コンサート等の誘致を実現してほしい。防災機能の充実により、地域住民の福祉向上に努めてほしいと願う。 ○ 競技者だけでなく高齢者や子どもたちが日頃から健康増進のため気軽に立ち寄れる、地域に開かれたコミュニティスペースの充実を望む。 	<p>新県民体育館は、県民がスポーツをする施設（社会体育施設）に加え、プロスポーツや音楽コンサート、大規模展示会などを開催できるアリーナ機能を融合させた複合施設として整備する方針です。</p> <p>誰もがスポーツの楽しさや感動を得られ、プロスポーツやエンタメ、文化などを通じたまちづくり・地域活性化の拠点となることを目指します。</p>	<p>15</p>

ご意見の内容	県の考え方	件数
<ul style="list-style-type: none"> ○ 現行敷地で多少増築できるかもしれないが、「あれもこれも多目的」な施設をこしらえるには敷地が狭小であり無理だと思う。 ○ 青年センター駐車場を立体化し、屋上部分に人工芝スペースを整備する案を提案する。日陰を確保できる構造で熱中症対策となり、災害時にはペット同行避難への活用も期待できる。新体育館と上階部分で接続することで、避難時の円滑な動線確保につながると考える。 ○ 館内の声や音が反響しないよう吸音対策を徹底し、近隣への音漏れ対策を講じること。 ○ 観客が見えやすいよう、座席を「千鳥配置」にすること。 ○ 十分な観客席数が確保されるとのことであるので、運動会や体育祭などの学校行事にも積極的に活用していただければと考える。 		
<p>(施設の規模)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ メインアリーナの規模が小さいと感じた。コンサート利用で座席数 3,500 席は少なすぎる。高松のあなぶきアリーナ同等の 1 万席は必要だと思う。 ○ 一番期待していた音楽興行時の座席数が少なくてびっくりした。四国の他三県はすでに 5,000 席以上のアリーナがあるのに。中途半端なものはいらない。 ○ 最大観客数について 5,000 人を 6,000 人等、もう少し増やしていただきたい。 ○ 5,000 席規模のメインアリーナは大規模すぎるため、規模縮小を求める。高知県の人口・経済状況に対して過剰である。 ○ 大きなアリーナにすることには反対。既に高松市には大きなアリーナが活動しており、四国に 2 つは必要ない。財政難である高知県が無理して大きな施設を創設することは、人口減少が予測される県に負担となることは明らかである。 ○ 座席数については、トップリーグ等開催には限界がある一方、各種スポーツ・文化イベントに対応可能な「約 3,500 席規模」を目安として再検討を提案したい。360 度回転ステージや 3D 演出など、多様な舞台演出が可能な設備を備えることで、「規模はコンパクトでありながら質の高い」イベント開催が可能となることを期待する。音響、モニター、トイレ設備等は関連企業から設備提供を受け、PR 機会を提供する仕組みで最新設備導入につながるのではないか。 ○ 人口減少が続く高知県において 5,000 人も収容するアリーナがそもそも必要か。それほどの回数の大イベントが計画されている訳ではない。 ○ コンサートなどに使う 5,000 人規模のメインアリーナは、使用するイベントがなく、有名歌手コンサートは高松などで開催されると思う。 	<p>令和 6 年度の「あり方検討会」及び令和 7 年度から 8 年度の「基本計画検討会」の議論を踏まえ、メインアリーナは 5,000 人以上の観客を収容できる座席数とするという方針を決めましたが、これはプロスポーツの試合の開催基準を満たす座席数となっています。</p> <p>設計段階でより詳細な配置や規模を決めていきます。</p>	12

ご意見の内容	県の考え方	件数
<ul style="list-style-type: none"> ○ 約 5,000 人規模のメインアリーナ機能について、本当に需要や採算性が見込めるのか。四国内では昨年開業した「あなぶきアリーナ」で高い稼働率と集客を実現していると聞けが、高知県において同様の規模が必要なのか、慎重な検証が必要である。 ○ 高知県に多くの方が集まる施設を作ってほしい。新幹線もない四国に国内外から多くの方を誘致する方法として、1 万人規模のアリーナ建設を切望する。 ○ コンサート開催時、ステージを作ると 3,500 人収容になるそうだが、3,500 人では若者が好きな人気アーティストは高知に来てくれない。若い方に高知に来てほしいなら、もっと広い敷地に 1 万人以上収容のアリーナを作ったほうが良いのではないか。 ○ 社会体育施設としての体育館のみを希望する。5,000 人規模のアリーナは必要ない。 		
<p>(武道館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新県民体育館に新しい武道館として利用できるなら、駐車場や暑さの心配がなくなり、利用しやすくなると期待する。 ○ 新県民体育館には、現在武道館を使っている少人数の団体を含むすべての人達が、今と同じようにそれぞれ利用できる剣道場や柔道場が確保されるのか。 ○ 県立武道館は、高知城や城西公園との環境の融合性や、文化的歴史的風格など、現在の場所が最適である。交通の便も良く、様々な年代の人が健康づくりに参加できる。 	<p>武道館については、大会や練習の場として使用できる試合場 3 面分の広さを備えた施設を整備することとしています。</p>	3
<p>(プール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ レーンを分けるだけでなく、プール自体を用途別（子供・競泳他）に区分することを希望する。採暖室やジャグジー等の付帯設備があることで施設の魅力向上につながると考える。一方、敷地面積を踏まえると、教育利用を主目的とした「必要最小限の設備」による整備が望ましいと思われる。 ○ 現県民体育館の利用状況を鑑みると、プールは利用者の 35.7% を占めるのにもかかわらず、プール仕様策定はさずさんで、議論も希薄である。競技関係諸基準を確認し、少なくとも県大会開催が可能な仕様で計画を再策定する必要がある。 ○ アーティスティックスイミングは安全面・競技特性から水深 2m 以上を必要とする。新施設においては、一部コースのみでも深水確保、中央部分のみを深くするなど部分的な深水エリア整備、深水を活かしつつ浅水利用も可能となる構造や運用を検討いただきたい。また音楽を使用した練習が必要不可欠なため、音響設備使用 	<p>プールは現在の県民体育館と同規模とし、障害者スポーツセンターのプール機能を集約します。</p> <p>障害のある方の利用に配慮したスロープ付きレーンを設置し、県民の日常的なスポーツ利用を主目的とします。</p> <p>設計段階において、関係団体からのご意見を踏まえ、実装すべき施設規模と機能を決めていきます。</p>	5

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>環境整備、音の反響を軽減した構造、競技特性を理解した柔軟な運用についても検討いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新プールのインクルーシブな県民利用に配慮しつつ、県大会以上の公式競技（競泳、アーティスティックスイミング、水球、飛込）が開催可能な「日本水泳連盟のプール公認規則」に則った仕様（可動床導入等による水深確保）への見直しを要望する。 ○ 公認プールとしての水深 1.8m 以上 10 コース、また一部 3m の深さがあれば「県体」や「水泳の日」等のイベントも可能になる。水泳各競技（競泳、飛込、水球、アーティスティックスイミング）の選手の競技力向上に必要な冬季の室内プール練習環境を確保していただきたい。 		
<p>(付属施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 6歳の子供がいます。高知は雨天時に遊ばせる場所がないため、都会にもある有料のキッズスペースやスポーツに親しめる環境を早く作ってほしい。ジムやヨガ教室も併設すれば、子育て世代が親子で利用できる施設になると考える。 ○ ぜひプールの充実、特に更衣室を快適な空間にし、パウダールームを設けてはどうか。「運動する」と気負わず、カフェに行くような感覚で体育館に足を運びたい。デザイン性に優れた建築で、室内では素敵な音楽が流れる施設になることを望む。新しい利用者呼び込むことができるのではないかと。 ○ 一般の方が利用できるトレーニングルームを整備していただきたい。 ○ 新施設にはボルダリングができるスペースがほしい。スケートボードなどを含めた「アーバンスポーツ」ができる場所として整備すれば、若者の交流の場にもなると思う。 ○ 「ユニバーサルなデザイン」として、感覚過敏や自閉症、発達・精神、知的障害を持つ人たちがパニックや気持ちを安心して落ち着けさせることができるカームダウンスペースやカームダウンルームの設置、通常の客席で観劇・観戦が難しい人たちも落ち着いて観劇・観戦できるセンサリールームを設置してほしい。 ○ 館内にコンビニエンスストアや弁当を購入できる店舗を設置していただければ利便性が向上する。飲食店を併設することで施設利用の促進にもつながると思う。 	<p>いただいたご意見を踏まえ、県内外から老若男女、特に若者や子育て世代を中心に多世代の方々が集まり交流することができる施設を目指します。</p> <p>敷地内には憩いのスペースを設けることとしており、来館者が屋外でくつろいだり、イベント時にはキッチンカーによる軽食の提供ができるようにします。</p> <p>また、トレーニングルームや、ボルダリングなど親子で楽しめるスペースの設置も検討します。</p> <p>加えて、初めて利用しようとする方にとっても入りやすい、使いやすい施設となるような工夫を検討します。</p>	6

4 事業費・スケジュール・収支見込み

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(事業費・スケジュールの試算)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 計画では事業費が「約 208.9 億円」で「さらなる建設費高騰により上振れが見込まれる」とあり、供用開始時期は「令和 13 年度半ば」とされている。昨今の物価高騰と世界情勢を踏まえると、不確実な要素が多く、計画どおりに進まないことが懸念される。事業費や供用開始時期は都度見直し、県民に丁寧に情報提供・説明していただきたい。 ○ 事業費について、今後さらに大幅に上振れするのではないか。物価高騰から着工が遅れば遅れるほど事業費が高額になる。早期着工が最も事業費の縮減につながる。投資分に見合う経済効果や公的サービスの質の向上を生み出してほしい。 ○ 国の補助金を活用することを見込んでいるようだが、ここ数年来の人件費や建設資材の増額傾向から、現在の試算額で賄えるとは思えない。 ○ 建設費用 200 億円とのことだが、そんな費用でできるはずがない。この計画は建設ありきで、後のことは何も考えていないのではないか。 ○ 事業費については適宜時点修正を行い、入札公告前の県議会予算承認の際には、入札公告から入札時までの物価上昇への対応を整理し、入札不調や再公告のタイムロスを防ぐため、物価上昇分を加味した適切な予算設定をお願いしたい。 ○ 建築資材等の高騰は止まることなく、新体育館の建設費も予定金額より上振れが予想されるが、想定内か。 ○ 人口減少が進む高知県において、総事業費が 200 億円を超える計画は過大である懸念を拭えない。後付けで機能を盛り込んだ結果、将来の県民に過度な負担を強いることがないよう、機能の精査やコスト削減の議論を尽くしてほしい。 	<p>新県民体育館の整備については、現時点では事業費を「約 208.9 億円」、供用開始時期を「令和 13 年度半ば」としておりますが、ご意見のとおり、昨今の物価高騰の状況や世界情勢を踏まえると、今後さらなる事業費の上振れや供用開始時期の遅れが発生することも見込まれます。</p> <p>節目、節目のタイミングにおいて、事業費やスケジュールについて見直すことも含め、随時県民の皆様へ情報提供・説明を行ってまいります。</p>	7
<p>(収支見込み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県側が示した「年間利用シミュレーション」を見ると、メインアリーナ利用における競技大会・プロスポーツ・エンタメの件数は 55 件に過ぎない。しかもこの数字自体、かなり盛った数字であるとの指摘がなされている。検討会のトラブルがありながら結論を急ぐ県の姿勢からは、よりよい新県民体育館整備の検討が、いつの間にか「公共施設等適正管理推進事業債」獲得の検討になっているのではないかと懸念を抱く。 ○ 現在の計画では、収入の見積もり金額が甘いのではないか。Bリーグと大型コンサートを見込んでの設備を構えようとしているが、今の計画では収入の道を絶 	<p>現時点で、新県民体育館の供用開始後最初の 5 年間でプロスポーツチームがない「するスポーツ中心」時期、6 年目以降はプロスポーツチームができ、新県民体育館をホームアリーナとして試合を開催する「する+みるスポーツ」時期として想定し収支を見込んでいます。</p> <p>新県民体育館でプロスポーツの試合や音楽コンサートなどが開催されるよう、プロモーターなどイベント主催者と意見交換を行うなど、誘致に向けた取り組みを行って</p>	6

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>たれた気がする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 施設の規模が大きくなるほど、建設後の施設管理費も増大し、その負担は最終的には高知県民にかかってくる。 ○ 近年の建設費高騰は予測が難しく、費用が倍増することは十分に考えられる。見込まれる収益と高額な建設費、維持費を十分に検討する必要がある。 ○ 今後ますます人口減少が進む中で、この高知にアリーナが必要か、維持できるか議論されているか。施設の維持管理費は20年後、30年後の高知県人口で負担できるレベルか。 ○ 計画の財政的裏付けについても十分な説明が必要である。長期的な収支見通しや維持管理計画について、県民に丁寧を示すべきと考える。 	<p>きます。</p> <p>また、ネーミングライツや広告掲出料などの貸館以外の収入を増やす取り組みも検討し、県の財政負担の軽減を図っていきます。</p>	

5 建設地

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(建設地の選定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 棧橋地区は津波浸水区域で地震時は津波を心配するが、高知市の中心商店街から近く集まりやすいメリットがある。被災時の避難場所や避難経路を明確にし、利用者の人命を守ることを第一に考えた整備をお願いしたい。 ○ 様々な反対意見があるかと思うが、負けずに必ず実現させてほしい。特に津波浸水想定区域への建設に反対の声については、レベルⅡの津波発生確率が著しく小さいことを県がしっかり県民にアナウンスすべきである。 ○ 敷地が狭いなら無理に今の場所にこだわらなくてもいいのではないか。それができないならちばさんセンター跡地に音楽興行専用ホールなどを整備してほしい。 ○ 鏡川の南側で海拔が低く、住宅街も隣接。大きなイベント時に災害発生の場合、鏡川が北に位置することで避難できる場所が限られる。土地自体も弱く「安全安心に利用できる」とは言い難いと思う県民が多いのではないか。 ○ 現在地は住宅密集地で、周辺には教育施設も多く、津波浸水想定区域である。交通渋滞、災害時の避難や安全性、地域負担について、十分な検証や県民への説明がなされているとは言えない。現在地ありきではなく、より適切な立地について時間をかけて検討する必要がある。 ○ 路面電車の利用促進も兼ねて、旧高知南中高跡地に建ててほしい。現地では到底平時でも足りるスペースがあるとは思えない。「駐車」だけでなく、近辺で人が過ごせるかどうかの問題である。広々とした土地を有効活用していただきたい。 ○ 今後コンサート以外でも県体など一度に多数の方の利用が想定される。おそらく今の場所では近隣への迷惑や利用者の不便が想定される。①東部球場くろしおアリーナ周囲整備、②ちばさんセンター活用、③南高校跡地利用を提案する。 ○ ちばさんセンター跡にアリーナを建設すべきである。 ○ 現在提示されている建設予定地は敷地が狭隘で、要求される多機能を合理的に配置するには無理がある。狭い敷地に押し込むのではなく、広大な県有地である「旧高知南中学校・高等学校」の敷地を活用すべきである。隣接する「わんぱくこうちアニマルランド」は津波による動物溺死リスクを抱えているため、「のいち動物公園」への移転・統合を早急に検討し、その跡地も含めた広大な敷地で都市防災とスポーツ拠点のランドデザインを総合的に検討し直すことを強く求める。 ○ 乱暴な発想かもしれないが、今後の高校生減少や県立高校再編を念頭において、 	<p>新県民体育館の建設地については、はりまや橋など高知市中心部から徒歩 20 分圏内であり、公共交通機関によるアクセスの利便性が高いことや、中心市街地と連動した賑わいづくりが期待できることから、現在の県民体育館の敷地が最適と判断しました。</p> <p>現在、L2 クラス (1000 年に 1 回程度発生しうる最大クラス) の地震が発生した場合、2～3m の津波浸水、津波到達時間 40～60 分が予想されていますが、新県民体育館は利用者や地域住民が緊急に避難することができる「指定緊急避難場所」や一定期間避難生活を送ることができる「指定避難所」の指定を見据えた規模・構造とし、地域の防災力を高める施設を目指します。</p>	<p>19</p>

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>現在の県立岡豊高校の場所に新県民体育館を考えてもいいのではないかと。閉校せずとも敷地や周辺地をうまく使い、高校と共用可能な体育館設備、文化イベント会場とすることで、稼働率や設備メンテナンス費用などメリットがあるのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新県民体育館は、市中心部から一定距離があったとしても、高知ちばさんセンターの土地に、アリーナ型ではない体育館で建設してほしい。 ○ 南中高跡地は現在の体育館敷地面積の2.7倍、37,000㎡あり、こちらの方が適地である。1階フロアを高くする津波対策も可能で、地下駐車場の心配もなく、地震時の災害対策拠点ともなりうる。メイン及びサブアリーナを南中高跡地に建設すれば、体育館不在の期間もなく、他人の土地をあてにせず県民の同意を得られるのではないかと。 ○ 考える候補地①こうち旅広場、②城西公園、③丸の内高校。施設稼働率を高め、街づくりにつながり、防災施設としての役割を考慮すれば、浸水地域の栈橋通りは適当と思えない。時間をかけて、施設の規模を含めた総合的で長期的判断が必要である。 ○ 市の中心部では無理がある。公共交通で大規模輸送のできない高知ではイベント時に交通の大混乱を引き起こす。郊外やちばさんセンター跡地に建設し、シャトルバス送迎が現実的である。 ○ 南海地震が来ると言われている中で、アスパルこうち、県民体育館は浸水・液状化する危険があると言われている。そこに施設を集約するのは反対である。ちばさん、武道館は今の役割を大切に、そこを使用している人の意見を聴き建て替えてほしい。 ○ 災害時に長期間に及ぶと予想される浸水エリアに新県民体育館を建設することに反対する。 ○ ただ単にそこにアリーナを作ればいい、持ってくればいいという発想ではダメだと思う。人が多く集まるためには、交通・飲食・宿泊などを考える必要があるが、計画は建設予定地の周辺地区再開発まで含めて勘案すべき案件ではないかと。 ○ 現地での5,000人収容アリーナ建設に反対する。津波などの安全面の懸念があるが、敷地が狭すぎる。現在のちばさんセンターの場所に5,000人以上のアリーナを作る方が現実的だと思う。 ○ 現予定地の安全性についての検討が十分になされず、利便性が優先されたのはなぜか。「南中高跡地リスクとそんなに変わらない」と述べられているが、数年前 		

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>南中高と高知西高等学校統合の際、南中高の弓道場は災害時に安全性が確保できないとの理由から即閉場されたと聞く。計画概要に「安全・安心」と掲げられているなら、新県民体育館は避難所として地域住民のよりどころ、災害時こそその視点が第一義的に必要ではないか。</p>		

6 交通・駐車場

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(交通渋滞・駐車場不足)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの来場者が予想されるため、交通渋滞や駐車場不足への対策を最優先で検討していただきたい。駐車場確保はもちろん、公共交通機関との連携を強化し、県内外から誰もがスムーズにアクセスできる計画の策定を要望する。 ○ 高知市内の交通結節点から体育施設まで徒歩移動しても苦にならないような仕掛けが必要である。ベンチ設置、歩道ペイント、街路灯統一、通りの愛称設定など、歩きやすい環境づくりや県民に歩く文化の啓発が大切である。また公共交通利用者増加からバス停留所や電停の改修も検討すべきである。 ○ 駐車場確保については「主催者や出展関係者の駐車場として使用」とされている。イベント開催時の来場者用駐車場は整備しない計画なのか。 ○ 敷地面積に対して機能を詰め込み過ぎている。公共交通利用を促すとあるが、高知県民は圧倒的多数が車を利用している。細い路地も多い住宅街が隣接し、コインパーキングも少なく、大勢利用の日は近隣住民にも不利益が生じる。 ○ 駐車場は身障者・搬入搬出・職員・送迎用等、必要最小限の併設に限定し、一般利用者向け駐車場については、近隣で管理運営可能な団体・事業者を公募し委託方式を検討してはどうか。 ○ 「大規模イベント時には潮江緑地や旧高知南中高グラウンド等を活用する」とされているが、数百～数千に及ぶ利用者をスムーズに移送するための対応が検討されたのか。そのための費用がいくらで、誰が負担するのかの検討もされたのか。 ○ 駐車場はどう考えても足りないと思う。特にちばさんセンター機能を持ってきて250台はあり得ない。また南中高敷地を臨時駐車場にするとの話だが、セットにすれば南中高敷地をずっとキープしなければならない。そんなことが可能か。 ○ 計画案では敷地内への車両引き込みスペースと歩車分離など周辺地域渋滞緩和の建築的配慮が謳われている。しかしイベント時の絶対的交通量を想定すると、現敷地周辺道路自体のキャパシティが圧倒的に不足している。近隣の「旧高知南中高」跡地を有効活用し、駐車場やバス発着拠点などの機能を外側に分散させる対策が不可欠である。 ○ 駐車場250台地下は主にイベント関係者用。一般駐車場が全く不足。とさでん交通利用は良いが、高知はクルマ社会。県民体育館はクルマに対応できる場所に造るべき。南高跡地に新県民体育館と駐車場を作るのが良いのではないか。 ○ 現状の県民体育館でも大規模大会時には渋滞などの混雑が発生している。地域 	<p>新県民体育館は、地下駐車場の選択肢を含め250台以上の駐車場を確保することとしています。ただ、一般の来館者に対しては公共交通機関の利用や徒歩での来館を促すとともに、大規模イベント時には、駐車場が不足することが予想されるため、潮江緑地や旧高知南中高のグラウンド等を臨時駐車場として活用することを想定しています。</p> <p>さらに、大規模イベント時の路面電車や路線バスの臨時的な増便やバス停留所や電停の改修について運営主体のとさでん交通株式会社などと協議を行っていきます。</p> <p>また、新県民体育館周辺での渋滞や混雑の発生を極力少なくするため、車両進入路などの誘導板の設置や周辺の住宅地や教育施設などに配慮した動線を検討していきます。</p>	<p>15</p>

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>住民に愛される施設でなければ、利用率が低迷した際、存在意義の薄い施設になる懸念がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 立地条件が十分に考慮された計画になっていないと感じる。県民体育館周辺はすでに建物があり空いたスペースがないように思う。駐車スペースや搬入スペースをもっと確保してほしいが、今回の計画は建物が目いっぱい建設される計画であり無理があるため、再検討してほしい。 ○ 現武道館の駐車場スペースは極めて狭く、大会が行われ他競技とバッティングした際には他の駐車場に移動しなければならない。武道関係者に不便を強いることがないように、十分な駐車スペースを要望する。 ○ 路面電車に近い好立地だが、5,000人規模のイベント時の周辺渋滞対策が不十分だと感じる。一般駐車場の大幅な制限が高齢者や遠方からの利用者排除につながるよう、実効性のあるアクセス計画を求める。 ○ 貴重な施設敷地を駐車場で埋めてしまうのはもったいないため、駐車台数は計画の250台から半分程度に減らし、周辺の交通渋滞を併せて考えること。 ○ 駐車場は最大料金設定のある24時間出し入れ可能なものにしてほしい。 		
<p>(地下駐車場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 浸水地域に地下駐車場とはどう考えてもあり得ない。 ○ 今の計画には大反対。浸水予想多大な地域への地下駐車場を今の時代に新たに作る計画なんて、全く無責任甚だしい。 ○ 「ピロティ空間や地下空間等を活用して250台以上の駐車台数を確保」とあり、防災対策では「地下駐車場を整備する場合の対策」と必須ではないとも読めるが、地下駐車場は計画の必須条件か。 ○ 現在の計画にある「地下駐車場」は止水板や排水ポンプによる対策を講じるとされているものの、水害時の心理的・物理的リスクを完全に払拭できない。むしろこのスペースを「立体駐車場」へと転換することを提案する。 ○ 体育館敷地内に地下駐車場を作ることは、施設周辺の渋滞や災害時の危険が予想できるため、別地に平地もしくは立体の駐車場を建設する方針を提案する。 ○ 新県民体育館計画で一番問題なのは駐車場である。L1クラスなら三重防護があれば心配ないというが、津波だけでなく地盤沈下も想定される地域で、はたして地下駐車場から無事車を出せるか。潮江地区は古来地盤が脆弱な地域で、地下湧水処理に想定以上の多額費用がかかるのではないか。 ○ 潮江地域は南海地震で地盤沈下する場所なのに地下駐車場はだめではないか。 	<p>現建設予定地の敷地内において地上と立体駐車場による必要な駐車台数の確保は困難であることから、地下駐車場の整備が有力な選択肢であると考えております。</p> <p>また、地下駐車場を整備する場合は、内水氾濫対策として出入口に止水板や土嚢等の設置による物理的な浸水対策を講じます。</p> <p>さらに、津波浸水対策として施設を津波に耐えられる躯体構造とするほか、地下駐車場から垂直避難が出来る階段(ルート)を複数設置することや、避難訓練の徹底などのソフト対策を講じます。</p>	21

ご意見の内容	県の考え方	件数
<ul style="list-style-type: none"> ○ 南海トラフ地震対策が喫緊の課題となっている中で、浸水地域に地下駐車場を新たに建設するなど、理解に苦しむ。 ○ 浸水地域での地下駐車場は防災面から考えてやっていいことなのか。 ○ 地下駐車場は水害にあうので無駄にならないか。 ○ 長期浸水地域に地下駐車場をつくることは、常識的に考えてあり得ないことである。 ○ 一番心配しているのは地下駐車場。高知県は南海トラフの防災対策に力を入れていると思うが、浸水危険区域である棧橋通りに地下駐車場を造ることに関してどのような見解を持っているのか、納得できない。 ○ 浸水想定地域に地下駐車場を設置して駐車場不足を解消しようとしている。 ○ 現在の場所で建て替える以上、地震（津波や液状化）に対して脆弱な地域であるという現実を直視すべきである。このような災害リスクのある土地に、多大なコストをかけて無理に「地下駐車場」を整備する必要はない。 ○ 浸水地域に地下駐車場とはどうしたものかと思う。地盤は大丈夫か。色々な疑問点が山積み、県民の声をもっと聴き入れてもらいたい。 ○ 浸水地域に地下駐車場は作るべきではないと考える。 ○ 地下駐車場は必要か。掘削の際、水の流入のため工期遅延の可能性があり、止水板、土嚢はそもそも機能するのか疑問である。武道館をあきらめて地上の駐車場を増やしてはどうか。 ○ 津波・長期浸水地域に地下駐車場を作ることに反対する。潮江地域は南海トラフ地震などの大規模地震発生時に、液状化と地盤沈下のリスクが高い地域である。 ○ 駐車場については、地下駐車場は浸水リスクに加え、暗く感じられ、駐車もしづらさを感じる。地下駐車場を整備される場合には、明るさにもご配慮をお願いしたい。 ○ 駐車場は規模が中途半端で、わざわざ地下式にするメリットが分かりにくい。旧南高校に臨時ではなく常設の立体駐車場整備を提案する。 ○ 津波浸水地域に地下駐車場を作るなんて正気の沙汰ではない。 		

7 防災対策

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(防災対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 津波浸水区域内での立地となるため、震災時に多くの利用者が避難できるようにハード面はもとより、ソフト面も含めて最大限の対策を講じるべき。地域住民の安心と安全のために、防災の拠点施設ともなるよう検討を深めるべきである。 ○ ①三重防護の決壊も想定する中で、地下空間を整備する計画は、「制御不能な二次災害を未然に防止する」とする高知市総合計画との齟齬をきたすのではないか。②2,000人規模の指定避難所指定はアスパルグラウンドの存在が大きかったのではないか。地下空間が使えない浸水時の代替機能をどう確保するのか。 ○ 水害時の安全性を最優先に考慮し、一階部分を駐車場（ピロティ構造）とし、メインアリーナ等の主要機能を想定浸水深より上の階層へ配置する「メガストラクチャー（高床式構造）」への変更を提案する。 ○ 新体育館は災害時の避難所や物資輸送拠点としても位置づけられているが、現敷地のリスクを踏まえると、自家発電の燃料備蓄や生活用水確保など、名実ともに機能する設計への精査が必要である。 ○ 一旦津波が来ればこの建物の下部は水没し、アリーナは壊滅的な被害を受け、修復には多大な費用と時間を要する。これを避けるには、津波の来ない別敷地の高台に建てるか、一階の床を4～5m上げる方法がある。現在の予定地は厳しい日影規制と道路斜線制限があり、5,000人収容アリーナに必要な最低14～15mの天井高では床を上げる計画は不可能である。 ○ 県民体育館は潮江地区にあり、「津波浸水」ばかりでなく、地震直後の大規模火災とともに「津波火災」の発生危険度が高い場所である。これは単に「津波浸水」による被害ではなく、多くの「人命」に関わる問題である。この問題は「設計」のみで解決するものではない。様々な施設を集約するが、「巨大地震」を踏まえるなら「集中」より「分散」の視点でも検討すべきである。「巨大地震」の被害想定およびその後の復旧・復興を踏まえた計画とすべきである。 ○ 計画地は津波被害イエロゾーン・長期浸水地域だが、ここに今から県が巨費を投じて建てるアリーナの床面が水没を前提にしていることは問題である。せめて水没を免れる高さを確保するために嵩上げするのが県の最低限の責任である。 ○ 1階部分をピロティ構造にし、その上に体育館を配置することで津波浸水対策としつつ、災害時には周辺住民の「津波避難所」としても機能させること。 ○ 現在地は津波浸水や周辺の混雑が懸念される地域である。南海トラフ地震を想 	<p>新県民体育館は利用者や地域住民が緊急に避難することができる「指定緊急避難場所」や一定期間避難生活を送ることができる「指定避難所」の指定を見据えた規模・構造とし、地域の防災力を高める施設を目指します。</p> <p>現在、L2クラス（1000年に1回程度発生しうる最大クラス）の地震が発生した場合、2～3mの津波浸水が予想されており、メインアリーナ2階以上の観客席やコンコース、サブアリーナ屋上などに一時避難ができるよう整備を行うとともに、収容可能人数分の備蓄スペースの確保などの防災対策を講じます。</p> <p>なお、必要な機能については、高知市としっかりと連携しながら検討を進めます。</p> <p>また、災害時の地域住民の受入れや避難所運営を円滑に行うため、防災訓練や日常的な広報に努めることとします。</p>	<p>9</p>

ご意見の内容	県の考え方	件数
定した際、避難所や防災拠点として機能するための具体的な安全対策を提示してほしい。		

8 事業手法

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(事業手法の選定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業手法の選択は、利用料金水準や県民のスポーツ利用機会、長期的な財政負担に深く関わるものである。県民がより実質的な意見を述べられるよう、評価結果と選定理由が固まった段階で、改めて情報を共有していただきたい。 ○ これまでの高知県発注方法を変更することは難しいと思慮するが、単純に分離発注とするのではなく、入札不調等のタイムロスがなくせるような発注方法、発注条件としていただきたい。 ○ 本工事は高知県発注のため、県内建設会社との共同企業体組成が求められると考えるが、入札参加のための共同企業体組成の要件等については、入札公告前のできるだけ早い段階で情報提供をいただきたい。 ○ 指定管理にせず高知県直営にしてほしい。 ○ 建設後の運営に民間事業者が参画するのは20年が目安とのことだが、50～60年の建物の耐用年までをどう過ごす(負担する)のか。 	<p>事業手法については、新県民体育館が県民が「スポーツをする」施設(社会体育施設)としての機能をベースとしていることや、県民等の意見の反映、状況変化や不足のリスクへの対応、供用開始時期などを総合的に判断し、設計・施工・運営を分離して発注する、いわゆる「従来方式」を採用することとしています。</p> <p>入札不調等による供用開始時期の遅れを防ぐため、適切な発注方法や発注条件のあり方を検討していきます。その際には、県内事業者の参入に配慮し、共同企業体組成の要件なども併せて検討していきます。</p>	<p>5</p>

9 教育的配慮

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(アスパルこうちへの教育的配慮)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グラウンド廃止に至る意思決定過程では、当事者にごく簡易なアンケートが行われたのみで、十分な意見の反映がなされていない。現時点からでも、子ども・保護者・当事者の意見を聞き取り、グラウンドの使用の是非について再検討すべきである。 ○ 計画によって直接影響を受ける当事者の意見聴取が十分に行われる前に方向性が決定されたことは、丁寧な合意形成の観点からも、子どもの意見表明権の保障からも問題がある。県民との議論と十分な検討を経たうえで計画を進めるべきである。 ○ 高知市では不登校児童生徒数が増加しており、多様な学びの場や教育支援センターの充実が求められている状況の中で、現在の教育環境を後退させることは慎重であるべきである。不登校の子どもたちにとって最善の環境は何かを中心に据え、教育的観点から改めて検討すべきである。 ○ アスパルのグラウンドは不登校の子どもたち以外にも高校生や社会人も利用している。教育的配慮について屋上に人工芝を敷いた代案が示されたが、当事者はそのことに納得していない。当事者ともっと話し合いをしてもらいたい。 ○ グラウンドは無くさないでほしい。多数の意見を聞くこと。 ○ 体育館・ちばさん・武道館・プールを今の体育館スペースに詰め込むため、グラウンドをつぶすのをやめてほしい。土に触れることは子どもたちの成長に欠かせない。 ○ 新体育館の屋上に人工芝グラウンドを設ける代案が示されているが、広さや利便性などで違いが大きいのではないか。 ○ 不登校の子どもたちが通う施設の隣である。当事者の子どもたちや保護者の意見も十分に聴いて計画を進めてほしい。 ○ 今回の新県民体育館整備等基本計画に反対する。アスパルこうちのグラウンド敷地を使うことに対して、現在そのグラウンドを利用している人の意見を聞いていない。また、教育支援センターの近くに人を集める施設ができたら、教育支援センターに通うことができなくなる子も出るのではないか。現在教育支援センターから見える広々とした空が見えなくなるのも、子どもたちに精神的に圧迫感を感じさせるのではないか。 ○ アスパルこうちのグラウンド廃止に反対する。グラウンドは不登校の子ども達 	<p>これまで、アスパルこうち内の教育支援センター利用者等を対象としたアンケートを実施し、子どもや保護者のご意見の把握に努めてきたところです。</p> <p>教育支援センターに通う子どもや保護者の意見は様々あり、その声を丁寧に受け止めることは重要であると認識しています。</p> <p>今後、高知市教育委員会との継続的な協議を通じて、子どもや保護者等の意見も踏まえながら、教育活動に支障が生じないように、必要な配慮や環境整備について検討していきます。</p> <p>アスパルこうちのグラウンドを全面利用することの代替措置として、高知市教育委員会とも協議の上、サブアリーナの屋上に人工芝等を敷設し、子どもたちが運動や活動のために優先的に使用できるスペースを設置することとしています。</p> <p>また、アスパルこうちのグラウンドを利用している団体に対しては、現在の利用状況を踏まえ、旧高知南中高のグラウンドを含む市内の公的施設が所管するグラウンドの情報提供を行うとともに、旧高知南中高のグラウンドに照明設備を設けるなど、代替施設の確保について検討していきます。</p>	<p>19</p>

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>やスポーツクラブの青年達、工業高校や南高校の生徒達が使っている。若者の場所を奪わないでほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アスパルこうちグラウンドを必要としている人が多く、無くしてはいけない。 ○ アスパルこうちのグラウンドを屋上に設置するなど、「その場しのぎ」に感じる。 ○ グラウンドを残してほしい。今、必要としている児童生徒がいる。子どもの声を聴いてほしい。 ○ 概要に「隣接する高知市教育施設の教育活動や一般市民に対する文化的サービスに配慮」とあるが、そもそも利用者のいる市の施設を用途の異なる県の施設敷地に召し上げること自体が配慮を欠いていると言わなければならない。 ○ 対処療法かもしれないが、増えている不登校の子ども居場所の一つであるアスパルの機能が後退することはやってはいけない。アリーナ建設でのグラウンド使用はやめてほしい。 ○ アスパルこうち内にある教育支援センターみらいに通う不登校の子ども達もアスパルこうちのグラウンドを利用している。工業高校のグラウンドを不登校の子ども達が借りることは現実的ではない。旧高知南中高グラウンドも児童が利用しに行くには遠く、車移動にも教員不足で難しい。子ども達や若者のことをもっと知って考えてほしい。 ○ 教育施設グラウンドが他の目的に使用されることは不適切である。本来の教育支援や青少年スポーツに使用すべきである。 ○ 高知市の土地であるアスパルこうちのグラウンドは使用しないでほしい。 ○ アスパルは高知市民の財産である。これを非情にも取り上げていないか。 		

10 料金設定

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(料金設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ プールの利用料金について、高齢者からも学生と同額の利用料を徴収すべき。 ○ 安定した施設維持費の確保について、平日等の県民利用による利用料金収入が確保されるよう、会議室や多目的ルーム、トレーニングルーム等の日常的に使われる機能を一定、整備することが必要。駐車場の利用料について、県民の日常利用への費用負担に配慮をしたうえで、収入確保について検討すべき。 ○ プールの教育利用を行う場合、市内の公立小・中学校から一定の利用料を徴収することで、平日日中の利用収益を補填できる可能性があるのではないかと。 ○ 市民は出来るだけ安いところを探して利用している。賃金は上がらないのに物価は高騰し、やりくりしながら生活をしている中でも気軽に利用できる施設にしてほしい。 ○ 現在県民体育館やプールを利用している人たちの声を十分に聞いて、利用料金も使いやすく、県民・市民の納得のいくものにしてほしい。 ○ 利用料金設定を県民が利用しやすいものにしてほしい。 	<p>利用料金の設定においては、県民の誰もが気軽にスポーツに親しむことができるよう配慮する一方で、施設の維持管理費等の支出に利用料金などの収入を充て、県の財政負担（税負担）を抑える視点も重要です。</p> <p>プロスポーツや音楽コンサート等の興行の利用料金は高めに設定し、アマチュア競技の利用料金は低めに設定するなど、利用目的に応じた適切な料金設定を、現在の県民体育館や他施設などの事例も踏まえて検討していきます。</p>	<p>6</p>

11 その他

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(プロスポーツチーム誘致)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県民のどれほどが税金投入を伴ってまで支援を望んでいるのかは十分な議論が必要ではないか。今回の県民体育館もBリーグ等のホーム利用を想定しているようだが、複数競技のプロチームを継続的に支える地域となり得るのか、慎重な検討が必要。 ○ 次の条件と併せて、高知にBリーグが必要なのか、教えてほしい。 <ul style="list-style-type: none"> ① 県民の余暇行動の実態 ② 県全体の人口・経済規模 ③ 県民の公平性 ④ 県民課題の優先順位 	<p>県内で新たなプロスポーツチーム等の試合が観戦できたり、地元チームが誕生することは、競技力の向上はもとより、観光や地域経済の活性化にも大きく貢献するものと考えています。</p> <p>一方、プロスポーツチーム等の創設については、経営面で中心となる運営会社やメインスポンサーの確保が必要不可欠であり、チーム創設に向けた民間の動きなどとも連携し、必要な支援を検討していきます。</p>	2
<p>(既存のイベント等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 施設が整備され利用が可能となった際には、中学・高校の大会やイベントばかりで地域の方が満足に利用できないという状況は避けていただきたい。年間の施設利用計画作成においては、その点を十分考慮してほしい。 ○ 複合施設となっているので、武道館が他の用途(コンサートや他の競技団体の大会など)とのバッティングが生じた際には、例えば旧高知南高等学校の体育館使用を認め、代替で使用を許可させること。 	<p>新県民体育館では、アマチュアスポーツの競技大会や音楽コンサート等のイベント興行など多様な用途に対応できるように整備しますが、年間の利用調整にあたっては特定の用途に過度に偏ることがないように配慮します。</p> <p>また、旧高知南中高の体育館を含め、県民のスポーツをする機会の際の確保に努めます。</p>	2
<p>(若者の参画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県内の高校生を対象に、共有スペースのデザインコンペや愛称募集を行うなど、若い世代が整備に参画できる企画を設けてはどうか。 	<p>新県民体育館は、若い世代の方々に親しみや愛着を抱いてもらえる施設となることを目指しており、ご提案のように県内の高校生に施設整備の一端に参加いただくことで、より県民や地域、若い世代の方々に愛される施設になるのではないかと期待します。</p>	1
<p>(備品等の利活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 建て替える時、今の体育館の備品等で使える物はできるだけ捨てずに使ってほしい。例えば、トイレの便器はまだ新しくてきれいな物がたくさんあるので、女性用トイレに和式が多く使いづらい高知市立自由民権記念館に譲渡できないか。 	<p>現在の県民体育館で使用している備品の利活用を今後具体的に検討していきます。</p> <p>ご提案の譲渡については、高知市との調整が必要になりますが、一般的に新設よりも費用が高くなるため、難しいのではないかと考えています。</p>	1

ご意見の内容	県の考え方	件数
<p>(弘徳館の存続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県立武道館分館である弓道場「弘徳館」の存続を、以下の理由により希望する。 <ul style="list-style-type: none"> ①高知県立高知工業高校、同高知追手前高校の練習場となっている。 ②高知県立弓道場の近くにはバス停・電停がなく、公共交通機関を利用していくことができない。 ③高知県は「人口1万人当たりの弓道連盟登録人数」が全国一である。 ④横に広く移動に時間を要する高知県においては、県内の弓道場の数は決して十分ではない。 ○ 新県民体育館整備等基本計画の推進にあたり、利用者である高校生・大学生の教育環境、安全性および競技環境への影響を十分に考慮し、「弘徳館」弓道場の存続を強く要望する。 ○ 現在、弓道は自分の生活になくってはならない存在となっており、今後とも弘徳館の存続を切に希望する。 	<p>弘徳館については、現在県立武道館の分館として、一体的に管理運営を行っています。</p> <p>県立武道館を新県民体育館へ移転・集約化することとしており、弘徳館の存廃は関係団体や利用者のご意見も踏まえた上で検討していきます。</p>	3
<p>(ちばさんセンター大ホールの集約)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高知ちばさんセンターの今後の方針についても、可能な範囲で本計画と併せてお示しいただけると、より安心して計画を受け止めることができる。 ○ 産振センターからの要請項目を取り入れるかどうかにかかわらず、県としては、ちばさんセンター大ホールの新県民体育館供用開始後の廃止は決定事項なのか。 ○ なぜ、公益財団法人高知県産業振興センターから高知県知事あて「ちばさんセンター大ホール利用者の利便性確保に関する要請書」を出さないといけなくなったのか。 	<p>ちばさんセンター大ホールの今後のあり方については、大ホールを所有する公益財団法人高知県産業振興センターが令和7年7月に設置した「ちばさんセンター大ホール等あり方検討会」において検討が行われてきました。</p> <p>令和8年4月に開催された第5回の検討会において大ホールの廃止の方向性が示され、6月4日に開催された理事会において、「新県民体育館に機能を移転することを前提に大ホールを廃止する」方針が承認されています。</p> <p>ちばさんセンター大ホール等あり方検討会の過程で、大ホールの既存利用者に対し実施された「新県民体育館の利用意向に関する調査」において、新県民体育館の搬入出口や駐車場等について要望があったことを受け、大ホールの機能が新県民体育館に集約された後においても、利便性が確保され、大ホールが有してきた効果が継続されるよう、同財団法人から要請書が提出されたと承知しています。</p> <p>県としましては、要請内容を踏まえ、搬入出の動線や駐車場などコンベンションホールとして必要な機能・設備を確保していきます。</p>	3